

令和5年度事業報告

令和5年度は、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが「5類」に移行し、社会経済活動も日常に戻りつつある中、新たに策定した第4次中期計画のもと、石川県シルバー人材センター連合会、各市町センター、行政、経済などの関係機関・団体と連携し、シルバー事業の推進に取り組みました。以下、令和5年度事業活動について、次のとおり報告します。

1 会員の状況

年度当初の会員数は914人、年度中における入会が103人、健康その他の理由で退会した会員は169人で年度末会員数は848人となり66人減少しました。

2 事業実績

請負では、配分金220,306,371円、件数が3,529件（前年度242,379,635円、4,074件、対前年比：配分金9.1%減、件数13.4%減）、契約金額254,440,569円（同280,283,251円、9.2%減）といずれも前年度を下回りました。

一方、労働者派遣事業では、派遣会員賃金135,572,535円、件数234件（同128,859,043円、191件 対前年比：賃金5.2%増、件数22.5%増）、派遣契約金額171,061,373円（同162,253,348円 5.1%増）と前年度を上回りました。

3 就業の状況

就業実人員は693人（前年度731人 対比5.2%減）、就業延日人員76,746人（同81,659人 6.0%減）、年間就業率81.7%（同80.0% 1.7%増）となりました。

4 第4次中期計画の推進

令和5年度は第4次中期計画の初年度にあたり、センター事業の発展を図るため、令和5年度の計画を推進しました。

令和5年度実績		令和5年度末数値目標	
会員数	848人	／	目標値 900人
就業率	81.7%	／	同 81.0%
契約高	4億2千550万円	／	同 4億4千万円

5 入会の促進

- ① 原則毎月第2・4水曜日、センターにおいて入会説明会を開催し103人が新たに入会しました。（前年度88人、4.0%増）
- ② 県連合会主催の講習会を活用し、入会を促進しました。
- ③ シルバーの活動を紹介するシルバーパネル展を、市エントランスホールにおいて令和6年3月11日（月）から15日（金）まで開催し、同時に実施した入会説明会には25名の参加がありました。

- ④ 県連合会及びハローワークと連携し、出張相談を毎月第2・第4金曜日に開催し 124 件の相談件数がありました（前年度 122 件、1.6%増）

6 就業機会の確保と普及啓発事業の推進

(1) 就業機会の確保

- ① 会員一人ひとりが「困ったことがあったらまずシルバーへ」の合言葉により、仕事の開拓に当たりました。
- ② 会員のスキルアップ講習（剪定、清掃、草刈等）を県連合会と連携して実施し、発注者の満足度向上に努めました。
- ③ 発注者からの依頼が多く、会員が不足している職種（剪定、表具張替え）について、当センター独自に実施した講習会や就業体験を通じて後継者を育成し、令和6年度から新たに剪定では4名、表具では2名が業務に従事することとなりました。
- ④ 会員が就業を通じて口コミで仕事の開拓にあたりました。
- ⑤ 会員に対してホームページやスマホの会員専用サイト「Smil to Smile」を活用し、お仕事情報や講習会等の情報を発信しました。

(2) 普及啓発事業の推進

- ① 市広報やマスコミへ情報の提供を行ないました。
- ② ホームページをリニューアルし、センターからの新着情報を定期的に更新し、センター事業をPRしました。
- ③ 県連合会と連携し新聞・広告・メディア等を活用しシルバー事業をPRしました。

7 安全・適性就業の推進

(1) 安全就業の推進

- ① 就業先や業務内容に応じたコロナ感染予防に努めました。
- ② 県連合会と連携し、派遣運転技能講習を実施し事故防止に努めました。
- ③ 当センター独自の安全講習会の開催や県連合会と連携した安全パトロールを実施し、安全用具着用、独り作業の禁止等を徹底しました。
- ④ 請負で傷害事故は5件（前年度7件）、賠償責任事故は3件（前年度7件）と傷害事故及び賠償責任事故ともに減少しました。また、派遣では労災事故は2件（前年度3件）、賠償責任事故は0件（前年度0件）と労災事故は減少し、賠償責任事故は昨年引き続きありませんでした。
- ⑤ 事故発生時に状況を確認し、原因及び事故防止策について、職群班長を通じ会員へ周知徹底しました。また、草刈作業において刈払い機での飛び石事故が多いことから、次年度に向け回転ハサミ式刈刃の使用を原則とする安全就業基準（草刈り）の改正を行いました。
- ⑥ 刈払い機を使用する業務に従事する会員に対して、外部機関が実施する安全教育講習の受講を義務付け14名が受講しました。
- ⑦ 熱中症対策として、センター玄関に「熱中症特別警報」を表示し注意喚起するとともに、熱中症アラート発表時には、午前中での作業の切り上げを周知しました。
- ⑧ 小松市と包括連携協定を締結している大塚製薬株式会社の方を講師に迎え、熱中症対策について講義を受けました。

(2) 適正就業の推進

- ① ローテーション就業を推進し多くの会員が就業出来るよう工夫しました。
- ② 県連合会と連携し、労働者派遣事業を推進した結果、派遣事業の契約金額は前年度 4.1% 増となりました。
- ③ 毎月第3水曜日に未就業の会員を中心に就業相談会を開催し、会員の就業を推進しました。

8 独自事業の推進

- ① 和服リフォーム品等を道の駅、海の駅、センターで販売し、653,363 円（前年度 674,511 円 1.0%減）を売り上げました。
- ② スマイルシニア農園で栽培した野菜や加工品を道の駅、センターで販売し、690,222 円（前年度 981,508 円 対比▲29.7%）を売り上げました。
- ③ しめ飾りを作成し、市役所本庁舎、南支所、消防本部、小松警察署に寄贈するとともに、道の駅等で販売し、886,850 円（前年度 961,107 円 対比▲7.7%）を売り上げました。

9 デジタル技術を取り入れた業務の推進

- ① ホームページを定期更新するとともに、新たに「お仕事情報」や新着情報を提供しました。
- ② スマホを活用した会員情報専用サイトの登録を推進し、配分金明細、就業依頼等の当該サイトを利用した情報提供の運用を開始しました。
- ③ 会員対象のスマホ講習会を 11 回開催し、会員のスキル向上を図りました。

10 シルバー人材センター活動の更なる活性化の検討

- ① 第4次中期計画の課題等を検討しセンター事業の活性化を図るため、理事会の下に特別委員会として「今後のあり方検討委員会」を立ち上げ、年3回の委員会を開催し各種課題等を検討しました。
- ② 会員互助会と連携し、サークル活動の活性化を図るとともにコロナ禍で実施出来ていなかった研修旅行を10月に開催し、50名の会員が参加しました。

11 事務局体制の強化

- ① 職員の採用計画に基づき、プロパー職員1名を採用しました。（R6.4月～）
- ② 職員のスキルアップ、サービス向上を目的に、電話対応や事例のケーススタディを中心とした接遇研修を8月に実施しました。
- ③ センター事業を円滑に推進することを目的として、専門部会及び委員会を再編し、理事会の下に置く委員会組織に統一しました。（R6.4月～）

12 消費税インボイスへの対応

インボイス制度が10月より施行され、関係機関と連携し研修会等の受講により安定した事業運営に努めました。